

平成30年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人長岡技術科学大学

1 全体評価

長岡技術科学大学は、主に高等専門学校から学生を受け入れ、未来社会で持続的に貢献する実践的・創造的能力と奉仕の志を備えた指導的技術者を養成する、大学院に重点を置いたグローバル社会に貢献する大学を目指している。第3期中期目標期間においては、①未踏領域・未踏分野に挑戦する、タフなグローバル技術者の育成、②強みを持つ分野を中心に世界をリードする先進的・創造的研究や分野融合型研究の推進、③海外大学・産業界との強固なネットワークに立脚したグローバル化の推進、④地域や企業が抱える諸課題の解決や地域が必要とする人材を育成するとともに、地域を世界に繋ぐ役割を果たし、地域活性化・地方創生に貢献することを基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、「持続可能な開発目標 (SDGs)」をテーマとした学生参加型の国際会議を主催するとともに、これらの取組等により、国連本部から「国際アカデミック・インパクト (UNAI) におけるSDGsのゴール9」のハブ大学に任命されるなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成30年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 海外もしくはこれに相当する環境での研究活動等を4週間以上経験する、技術科学イノベーション専攻の必修科目「海外リサーチ・インターンシップ」を8名の学生が履修し、派遣先の研究機関において研究活動を行い、協働研究者として高い評価を得ている。また、文部科学省の卓越大学院プログラムの採択を受け、技術科学イノベーション専攻に「グローバル超実践ルートテクノロジープログラムコース」を開設し、従前の人材育成に加え、新産業を創成できるプロデュース能力のある情報システムに精通したタフなイノベティブ人材の輩出を可能とする教育プログラムを編成している。（ユニット「実践的技術者を育成する「技学教育」の継続的発展」に関する取組）

2 項目別評価

<評価結果の概況>

| | 特 筆 | 一定の 注目事項 | 順 調 | おおむね 順調 | 遅れ | 重大な 改善事項 |
|-------------------|-----|-------------|-----|------------|----|-------------|
| (1) 業務運営の改善及び効率化 | | ○ | | | | |
| (2) 財務内容の改善 | | | ○ | | | |
| (3) 自己点検・評価及び情報提供 | | | ○ | | | |
| (4) その他業務運営 | | | ○ | | | |

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでおり一定の注目事項がある

(理由) 年度計画の記載17事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、一定以上の注目すべき点があること等を総合的に勘案したことによる。

平成30年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 海外SDによるグローバル化への対応と事務処理能力向上

三機関（長岡技術科学大学、豊橋技術科学大学、国立高等専門学校）が連携して実施するグローバルSD研修において、海外教育拠点（マレーシア・ペナン校）に事務職員を派遣し、グローバル化への対応と事務処理能力の向上を図っている。

○ IR推進室による経費削減の取組

IR推進室において、各課室の予算執行データから事業内容の分析を行い、全学をあげた事業の見直し・廃止による経費削減案をまとめ、必修科目「実務訓練」における学生指導謝金の支出廃止等の業務改善の促進と経費削減に取り組んだ結果、平成29年度から平成30年度にかけて事業の縮小・廃止を実行して段階的に約3,620万円の経費を削減している。

○ 業務の見直し及び事務の効率化

各課が業務改善案を作成し、改善目標を設定して業務改善を行っている。四半期ごとに改善状況を事務連絡会議にて報告、フォローアップすることにより、旅費規程等の見直しによる業務の軽減（業務時間の短縮10-3月 435時間の削減）や、オープンキャンパスの運用方法の見直しによる業務負担の軽減、入試問題にかかる著作権処理の完全外部委託化等、改善提案45件中、31件の改善が達成されている。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載9事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成30年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 国際共同研究の新規実施の取組等による外部資金比率（共同研究）の上昇

「海外拠点を活用した海外展開支援に関する相談会」を初めて東京で開催するといった取組を積極的に推進した結果、平成30年度における共同研究にかかる外部資金比率は5.3%（対前年度比約1.0ポイント上昇）となっている。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載3事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守等

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載11事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成30年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ ユネスコチェアプログラムの認定

技学教育を海外へ普及・展開させる取り組みとして「技学SDGインスティテュート」をユネスコに申請し、国内の工学系大学において初めてユネスコチェアプログラム"UNESCO Chair on Engineering Education for Sustainable Development"（技学SDGインスティテュート）に認定されている。

○ 教育研究等を通じた国際貢献

平成27年度以降、「持続可能な開発目標（SDGs）」をテーマとした、学生参加型の国際会議を主催し、SDGsに関連する研究テーマの発表会を英語により実施しており、この活動が国連に評価され、平成29年9月には国連アカデミック・インパクトへの参加が承認されている。これらの取組等により、平成30年10月に、国連本部から「国連アカデミック・インパクト（UNAI）におけるSDGsのゴール9（産業と技術革新の基盤を作ろう）」のハブ大学に任命されている。